

## 乳幼児とその保護者に対応する事業

仙台市の児童館ではすでに、幼児クラブなども実施されているが、乳幼児対象の事業の比重は軽かった。現在の、児童虐待の頻発や、子育て世代の負担感などを解消しようと、次世代育成支援推進法が制定され、様々な取り組みが進められている。児童館は今後さらにその中で大きな役割を發揮することを求められるようになってきている。

乳幼児は保護者と共に来館する場合が多い。子どもが主体というよりは、子どもと保護者がゆったり過ごせるスペースを提供することを主に考える。親子スペースをつくり、小さい子ども用のおもちゃをおいたり、飲食が可能にしたところ、次第に乳幼児づれの来館者が増えてきた。「児童館は小学生のためのもの」「放課後小学生を預かる場所」というイメージがあるのを変えつつあると思われる。子ども・保護者の友だちづくりのきっかけとなる季節ごとのイベントでは、地元の方の協力のもと、バラエティに富んだ企画となっている。また、育児不安に対処するための相談会、救急法講習会、学習会、託児付き講座などを実施した。開催に際しては、利用する母親たちの意見も取り入れ、企画や準備に母親も参加できる体制をとるために、子育て支援クラブの設立を働きかけた。その結果、市名坂児童館・鹿野児童館で子育て支援クラブが設立した。

小松島児童館では、以前学童保育の部屋を利用して行っていた民生委員の子育てサロンを児童館と共催で「ホッとひと息ママのおしゃべりティータイム」として実施、毎回 50～100 人の親子が参加している。

鹿野児童館では、地域で活動していたリトミックのグループが、ボランティアとして定期的にイベントを開催している。こちらも人気の事業である。